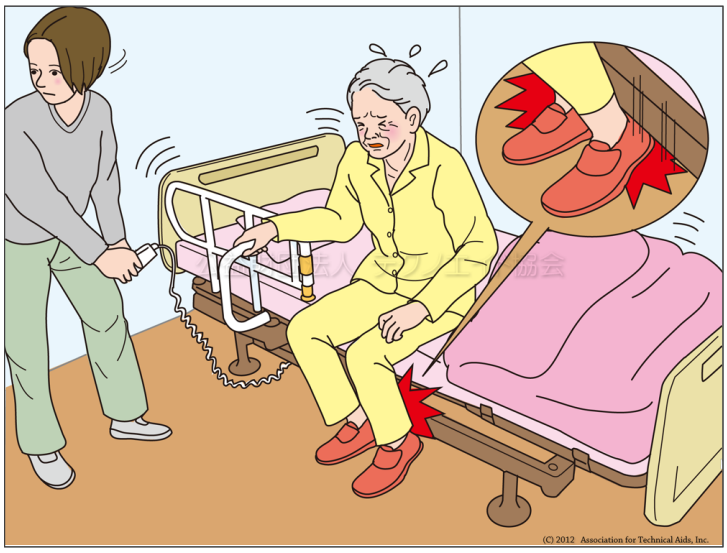
Case：24

ベッドを下げたとき、利用者のかかとがフレームと床の間に挟まり、ケガをしそうになる

場面の説明

介助者はよそ見をして、利用者の足を挟みそうな状況に気づいていない



利用シーン	起居・就寝 リモコン操作
主な利用場所	寝室
介護保険の種目	特殊寝台
分類コード (CCTA95)	181209 (電動ギャッチベッド)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

ベッドの機種により挟み込みやすさにも差がありますが、どの機種にも起こりうる事例です。端座位になってからベッドの高さを下げる操作は極力避け、やむを得ず操作するときには利用者の足の位置に十分注意をしましょう。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：利用者の足の位置を確認していなかった
人：よそ見をしながらベッドの操作をしていた
モノ：挟み込みやすい構造のベッドだった

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.